

保護者の皆様

大阪府立摂津支援学校
校長 藤井雅乗

令和4年度 「学校教育自己診断」実施と結果について（報告）

昨年10月に実施しました「学校教育自己診断」の集計結果がまとまりましたので、ご報告します。今後もさらに充実した教育活動を展開していきたいと考えていますのでご協力をよろしくお願いいたします。

1. 実施時期・実施方法

【保護者】 10月中旬に用紙・QRコード配付、すぐメールURL配信 10月末メ切

【児童生徒】 10月下旬に各学年で実施 11月4日メ切

【教職員】 10月中旬の職員会議でQRコード配付、学校メールでURL配信 10月末メ切

- ・保護者はGoogleフォームでの回答を基本とし、全保護者に紙も配付し回答できるようにした。
- ・教職員はGoogleフォームで回答、児童生徒は従来通り紙での回答とした。

2. 提出率

（過去3年の比較）※G:Googleフォームで回答 紙:用紙で回答 イ:イラスト版、文:文章版

	学部\年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
保護者	小学部	92.2%	96.7%	104.2% (G93・紙 30/118名)
	中学部	85.5%	83.5%	91.7% (G70・紙 30/109名)
	高等部	80.6%	86.5%	88.5% (G62・紙 38/113名)
児童生徒	小学部	13.8%	17.8%	15.3% (イ 118/118名)
	中学部	67.3%	66.0%	61.5% (イ31・文 36/109名)
	高等部	82.8%	75.9%	71.7% (イ27・文 54/113名)
教職員		99.2%	99.2%	98.6% (イ 137/139名)

3. 結果報告（集計は学校HP内別表）※割合は「Eわからない」を含めて算出

①保護者向け診断票 肯定的回答（A.よくあてはまる+B.ややあてはまる）の割合について

（ ）は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	50%台	全項目数	全項目平均	R2	R3	R4
項目数	6 (9)	12 (9)	3 (4)	1 (2)	4	26 (24)		85.0%	85.4%	83.3%

・肯定的な回答が50%台の項目より

		R2	R3	R4	経年比較
11	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	65.5%	67.7%	58.6%	-9.1
15	学校はパソコンやタブレットを使ってわかりやすい授業を行っている。（文言変更 R3:学習活動に、大型テレビ、パソコン、タブレット等のICT機器が活用されている。）	(66.2%)	(67.0%)	59.3%	(-7.7)

・肯定的回答が経年比較で±10ポイント以上の項目

		R2	R3	R4	経年比較
17	【中高部活動など参加者のみ回答してください】 子どもは、部活動、同好会、対外試合に意欲的に参加している。（文言変更 R1:子どもは、部活動に意欲的に参加している。）	(R1) 44.1%	-	59.4%	+15.3

19	摂津支援学校の子どもたちにとって、教室等のホワイトボードや掲示物、作品展示は見やすく整理整頓されている。 (文言変更 R3:知的障がい支援学校として、教室等のホワイトボードや掲示物、作品展示は見やすく整理整頓され、清掃は行き届いている。)	(81.9%)	(73.7%)	87.7%	(+14.0)
22	学校は、子どもが他の学校や地域の人と交流する機会を作っている。	(R1) 76.7%		59.6%	-17.1

- ・(文言変更)のうち、15,19は特に大きく変更しているため経年比較の数値に()を付けている。
- ・Eわからないが20%を超える項目は11「いじめ」、12「進路指導」15「ICT活用(1人1台端末)」、17「部活動」、22「交流」だった。(11、15は2年度より継続、且つ30%以上)

②児童生徒向け診断票

肯定的回答(文章版「A.よくあてはまる+B.ややあてはまる」、イラスト版「はい」)について
()は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	50%台	40%台	全項目数
文章版	0(5)	7(7)	6(4)	4(1)	1	1	19(19)
イラスト版	3(1)	7(6)	- (2)	-	-	-	10(9)
イ、文 合併	0(4)	8(10)	7(3)	2(2)	1	1	19(19)

	R2	R3	R4
全項目平均	87.6%	83.3%	78.4%

・肯定的な回答が50%台の項目

	R1	R2	R3	R4	経年比較
19	【中・高 部活動等参加者のみ回答してください】部活動、同好会、対外試合は楽しい。(文言変更 R1:部活動は楽しい。)	51.9%	-	59.4%	+7.5

・肯定的回答が経年比較で-10ポイント以上の項目

	R2	R3	R4	経年比較	
2	先生は、一人ひとりのことをよく理解してくれている。 E13.3%(R3の無回答との比較+13.3ポイント)	89.4%	91.0%	72.2%	-18.8
6	先生は、自分が頑張ったことを認めてくれる。 E7.8%(+6.5ポイント)	87.2%	92.3%	82.2%	-10.1
11	世界の国々や、環境、私たちの暮らしについて、学習することがある。 E17.8%(+15.2ポイント)	81.9%	80.3%	68.9%	-11.4
18	授業や行事で近くの学校や地域の人と交流することがある。 E31.1%(+27.3ポイント)	(R1) 68.8%	-	48.9%	-19.9

・肯定的な回答が+10ポイント以上の項目はなかった。

③教職員向け診断票 肯定的回答(A.よくあてはまる+B.ややあてはまる)の割合について

()は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	全項目数	全項目平均	R2	R3	R4
項目数	14(15)	15(16)	6(7)	4	39(38)	89.7%	88.2%	85.7%	

・肯定的回答が60%台の項目より

	R2	R3	R4	経年比較	
21	教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員は意欲的に取り組める環境にある。 (文言変更 R3:教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組んでいる。)	70.0%	71.1%	64.2%	-6.9
27	教職員はPTA活動に協力している。	-	73.5%	65.0%	-8.5

・肯定的な回答が経年比較で±10ポイント以上の項目		R2	R3	R4	経年比較
5	学習評価では3観点を意識し、バランスよく評価している。(R3に文言変更 R2:学年、教科、グループ等の教職員間で情報共有に努め、児童生徒の学習評価が適切に行われるように、配慮・工夫している。)	(95.4%)	77.4%	89.8%	+12.4
32	近隣の学校や地域の人との交流の機会を設け、教育活動に生かしている。	(R1) 87.6%	-	67.9%	-19.7
35	チームティーチングにおいて、サブの教員から主担任教員へフィードバックされている。 (文言変更 R3:公開授業週間や指導略案を活用して、他の教員の授業を見学したり、授業方法等について意見を交換したりする機会がある。)	(84.5%)	(80.7%)	68.6%	(-12.1)

・(文言変更)のうち、5,35は特に大きく変更しているため経年比較の数値に()を付けている。

④各診断票の横断比較について(学校HP内資料6、及び「5. 考察及び今後の課題」参照)

4. 意見について(別紙資料参照、学校HPへの掲載はありません)

いただいたご意見から抜粋してできる限り回答し、対応可能なものについては改善していく。また、ご意見、ご指摘、ご提案等は教職員全体で共有し、よりよい学校づくりに生かしていく。

5. 考察および今後の課題

- ①今年度も多くの保護者にご協力いただき、高い回収率となったが、小学部は回答率が100%を超え、中学部、高等部においても重複回答があったものと推測する。
- ②今年度は回答の選択肢に「Eわからない」を追加したため、経年比較において、R1~R3は「無回答」を含めた数値とした。昨年度の「無回答」と今年度の「Eわからない」の比較では、保護者、教職員においては大幅な増加はなかった。児童生徒においては倍以上増加した。

	R3 無回答	R4 Eわからない	経年比較
保護者	10.3%	11.2%	+0.9
児童生徒	4.2%	11.7%	+7.5
教職員	1.7%	3.0%	+1.3

③保護者の肯定的回答が50%台の項目11「いじめ」15「ICT(1人1台端末)」は「Eわからない」の割合も高く、横断比較においても12「進路指導」17「部活動」とともに教職員と差が-10ポイント以上あった。昨年度「無回答」の割合が高い項目は、今年度の「Eわからない」の割合がより高くなる傾向が見られた。以下に示す「Eわからない」の割合が高い質問は、保護者にとって答えにくい質問と考える。

保護者が答えやすいように質問内容を変更した項目19「学習環境」は、「Eわからない」の割合が減り、肯定的な回答が80%台になった。

・教職員より-10ポイント以上認識に差があった項目		肯定的	否定的	わからない	教職員	横断比較
11	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	58.6%	4.6%	36.7%	89.8%	-31.2
12	学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	69.4%	5.6%	25.0%	86.9%	-17.5
15	学校はパソコンやタブレットを使ってわかりやすい授業を行っている。	59.3%	9.0%	31.8%	94.2%	-34.9
17	【中・高 部活動等参加者のみ】子どもは、部活動、同好会、対外試合に意欲的に参加している。	59.4%	14.9%	25.7%	74.1%	-14.7

- ④児童生徒の肯定的な回答の平均は 70%台となり、教職員との認識の差が-10 ポイント以上の項目は 8 項目と昨年度より 5 項目増加した。全体的に「E わからない」の割合が増えたことも影響したと考える。
- ⑤今年度再掲した「交流」「部活動」は三者ともに肯定的回答が低くなった。「交流」については、コロナ前の交流の形にこだわらず、ビデオ交流などの新しい形での実施を継続している。また、淀川わいわいガヤガヤ祭への中高等部の生徒の参加やロータリークラブと高 3 のグラウンドゴルフの交流等を実施した。今後も実施方法を工夫しながら交流を継続していきたい。
- 「部活動」については質問対象が 33 人に対し、回答者数が保護者は 101 人、生徒は 64 人となり、正確な回答を得ることはできなかった。今後は質問自体について検討する。
- ⑥教職員の項目 5「学習評価」において、肯定的な回答が+12.4 ポイントとなった。今年度から個別の指導計画を学習指導要領に即して評価の観点（3 観点）を明記する様式に変更したことで、教員の学習評価に対する意識が高まったと考えられる。
- 23「学習環境」においては、学校が求める内容「知的障がい支援学校として、教室等のホワイトボードや掲示物、作品展示は見やすく整理整頓されている」に文言を変更し、肯定的回答は 80%台となった。
- ⑦教職員の項目 35「授業力向上」では肯定的回答が 60%台にとどまった。ティームティーチングにおいて、サブの教員から主担者へのフィードバックが十分されているとは言い難い。
- ⑧今年度、新設した教職員の項目 16「ICT 活用（1 人 1 台端末②）」は 85.4%、項目 39「虐待の未然防止」は 97.8%となった。「虐待の未然防止」について、各担任の気づきから部主事、各学部コーディネーター、管理職への相談の流れが定着し、学校全体として取り組んでいる。また、各学部のコーディネーターを中心として毎月の部会で不登校児童生徒の情報共有を行っており、虐待に限らず気になる児童生徒への意識はより高まっている。
- ⑨コロナのため中止していた様々な取り組みを少しずつ再開している。プール学習、他府県への修学旅行、学校祭の舞台発表、部活動、調理実習、児童生徒による給食の運搬、行事の保護者参観など。（一部再開を含む）今後も行事や授業を工夫し、コロナ禍、コロナ後の新しい学校生活の形を模索していきたい。

【今後の課題】

- ①学校の安全
校門の出入者チェックを含めた学校の安全対策について、改善に向けて取り組む。
- ②学校運営
「学校運営」や「校内人事」に関して、引き続き校内組織や会議の在り方を見直し、継続して改善に取り組む。
- ③授業力向上
R3までの文言は「公開授業週間や指導略案を活用して、他の教員の授業を見学したり、授業方法などについて意見を交換したりする機会がある。」であったが、今年度は学校経営計画に即してさらに踏み込んだ文言に変更した。ティームティーチングにおいては指導略案を活用したフィードバックを推奨しているが、口頭によるフィードバックも含めて新たな長期的な目標として継続して取り組んでいきたい。
- ④ICT の活用
1 人 1 台の端末の活用推進のためのアクションプランに基づき、月 1 回、教職員向けの研修を実施し、教員の ICT のスキルアップに努めた。年度末までに各教員が作成した ICT 教材のデータをハードディスクに保存し、各指導のノウハウを共有できるように進める。来年度もアクションプランに基づいて研修を実施し、授業や校務などで ICT の活用を促進させていきたい。
- ⑤情報提供
保護者へは今後もメールや HP 等を活用し、より一層の情報提供に努める。

6. 学校運営協議会より

学校の安全

- ・校門の出入者チェック等を含めた『学校の安全対策(確保)』は、予算の問題ではなく、児童・生徒の安全確保に直接かかわる最重大事項であり、喫緊に改善すべきものと思う。自身の地域の小学校は来校時必ず声かけがある。校門や校内での職員からの声かけが大事なので、もう一步進んで改善に取り組んでほしい。
- ・第一にすべき問題。摂津市は小学校には受付員がいる。中学校は鍵が締まり来校者はインターホンを押す必要がある。

保護者の回答について

- 保護者項目 11「学校は、いじめについて子供が困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」
 - ・肯定的な回答が60%を切り、しかも前年と比べても大きく低下していることは、残念。
 - ・自分の子どもに経験がないので答えようがないのではないか。例えば、クラス懇談で事案とその対応について報告すれば回答が可能かもしれない。あるいは、学校が聞きたい答えが得られるよう質問の文言を変更しては。
- 保護者項目 12「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」がどのようなものかイメージできない保護者もいると思う。進路について各段階でどのような指導をしているかの情報発信が必要。
- 保護者項目 15「学校はパソコンやタブレットを使ってわかりやすい授業をしている」
参観に来られない保護者、自分の子どもが家で学校の話をしていない保護者にはわからないと思う。情報発信が必要。教職員の94%が使用していると回答しているのに、保護者が知らないのはとても残念。

児童生徒の回答について

- 横断比較について、児童生徒項目 2「先生は、一人ひとりのことをよく理解してくれている」は72.2%、教職員の「児童生徒の人権を十分に尊重して、日常の教育活動を行っている」は97%という20%以上差がある。児童生徒の「わからない」の数値が増えたためと思うが、先生方が失望しなければならないと思う。しかし、「よく理解する」と「人権尊重」は似ているようで別次元の質問かもしれない。
- 児童生徒向け診断表で、2(一人ひとりの理解)や6(頑張りを認める)の肯定的回答の割合が大きく下がっていることが残念に思う。

教職員の回答について

- 教職員 21「校内人事」35「授業力向上(ティームティーチング)」においても、肯定的回答が60%台の低い結果で、かつ前年比からも大きく低下しているのも気になる。
- 以前からの教職員の課題(教員の校内人事)がまだ解決していないのは残念。
- 教職員の課題は、同僚感の不足にあるのではないか。
質問の1番から17番まで高評価で、児童生徒への教育と関わり方について先生自身がうまくいっていると感じているのがわかる。先生方は自信を持って教育活動に取り組んでいる姿が数字に反映されている。しかし、80%切るものは、教職員間の事柄に関わるものが多い。授業は工夫しているが、教員同士で教え合ったり、情報共有したりが、少し物足りないように感じているのではないか。教員同士のつながりを構築することが、校内人事にも通じるものがあるのではないか。
- 教職員の意見について
 - ・学校教育自己診断でなくても日ごろの学年会や部会等で協議できる内容があるように思う。「言い出しにくい雰囲気があるのか」と心配。
 - ・たくさんの厳しい貴重な意見がある。学校自己診断以外でも気軽に意見を言い合えて、改善していける環境が望まれる。
 - ・小学部の学習のあり方について厳しい意見があり、先生の小学部児童への一生懸命な思いが感じられ

る。このような情熱が空回りせずに、良い方向に持っていければと思う。

三者の回答について

- 保護者向け、児童生徒向け、教職員向けともに肯定的回答の割合がわずかながら下がっていることが気になる。摂津支援学校も開校から10年経ち、停滞時期に来ているのかもしれない。どの学校もそのような経過をたどることがあるが、この時期を乗り越えるような取り組みが必要ではないか。
- 教員・保護者・児童生徒からも一部教員への苦言が書かれていたことがとても気になった。必要であれば調査等実施していただきたいと思った。

学校自己診断実施方法（Google フォーム）について

- ・Google フォーム活用の功罪については十分検討されるかと思うが、回答の重複を防ぐ方策が求められる。
- ・回答者数が小学部保護者で100%を上回ったということは、子どものために回答しようとする保護者の熱心さと前向きに捉えたい。

教員の提出率について

- ・教職員の提出率が100%にならない理由の分析はされているか。
- ・昔は100%の時期もあったと思う。学校としては90%台は高い数字かもしれないが、それは学校の常識であって世間的には100%を求められるであろう。

その他

今年度において特に大きな課題はなく、学校が児童生徒のために健全に運営されているという喜ばしい結果だと感じた。新型コロナウイルス感染症は依然として流行しているが、できるだけ学校行事を再開したことが児童生徒、保護者、教職員にとって嬉しく今後の励みになったのではないか。

7. 来年度の実施に向けて

- 質問項目について、より学校経営計画に即した内容になるように整理していく。また、保護者、児童生徒にとって答えにくい文言については、検討して精査する。
- 今年度から開始したグーグルフォームの回答は過半数を超えていた。重複回答を防ぐため、次年度は保護者への紙の配付を希望者のみに変更する方向で検討する。